

多数アンカー式補強土壁工法

NETIS掲載終了
KT-980087-V

●特長

1.現場発生土の有効利用

補強のメカニズムからも、現場発生土を最大限利用できる工法のため、砂質土、岩ズリ、礫質土、粘性土などの有効活用が可能です。道路計画のゼロエミッションの推進に有効な工法です。

2.掘削量削減「ロックアンカー」

補強領域背面の岩盤が強固な場合は、ロックアンカーとの併用で掘削土量の削減を有効にします。現場発生土の抑制を推進するわが国の施策をふまえた合理的な工法です。

3.工期短縮と安全性

タイバーに組み込んだターンバックルにより壁面の鉛直度調整が容易です。また、部材は全て工場製作のため、工期短縮が図れます。全ての作業が盛土上でできることから険しい傾斜地での施工もスムーズ。工事の安全性を高めています。

4.確かな構造安定性

近年頻発する大型地震の震源地近くの実態調査でも、その優れた性能が確認され、極めて安全で安定した工法であることを実証しました。これまで、最大壁高25m超の実績があります。

5.幅広い盛土現場に

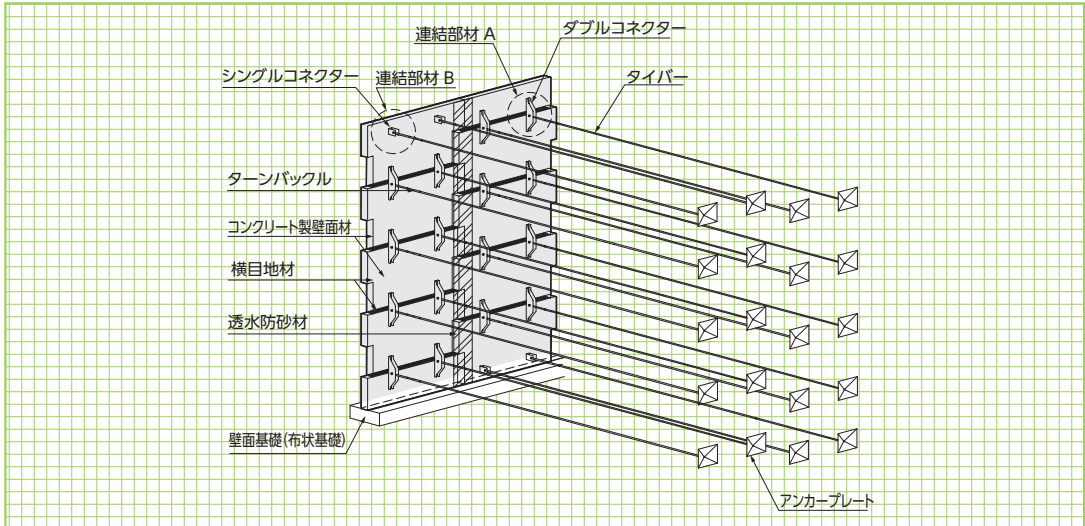
用地確保が困難な都市部から、河川断面を侵さない峡谷部の付替え道路まで、あらゆる盛土の現場に適用します。垂直壁を擁壁状に構築する多段盛土や、壁面材で土を挟み込む両面盛土などの計画も可能です。

6.維持管理・補修

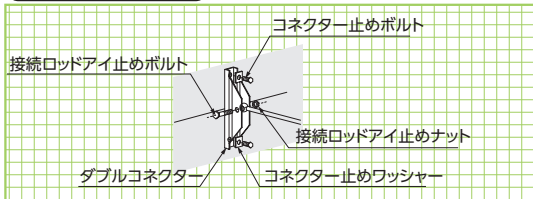
これからのインフラ長寿命化を見据え、維持管理方法をマニュアル化し、点検、記録項目を明確化しています。コンクリート製壁面材の軽微なひび割れや断面欠損も容易に補修可能です。



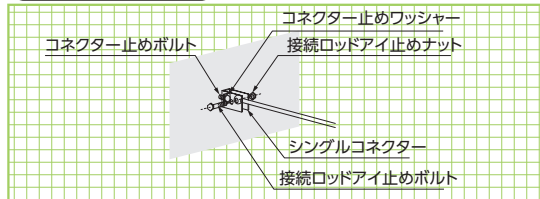
参考断面図

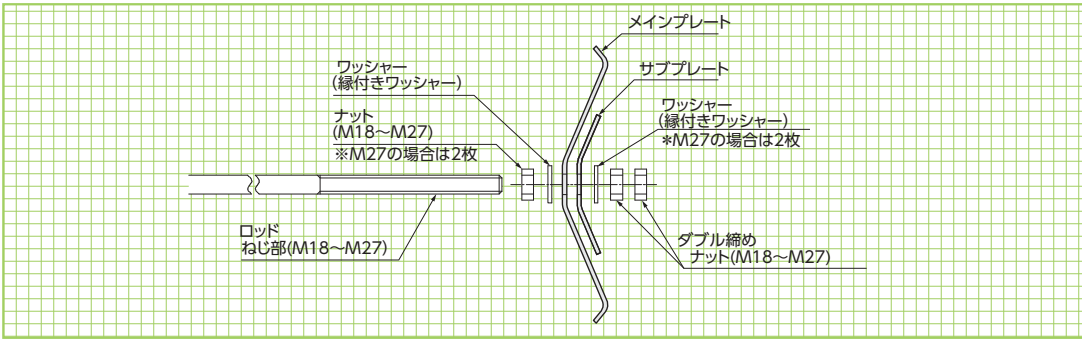


連結部材 A 詳細図



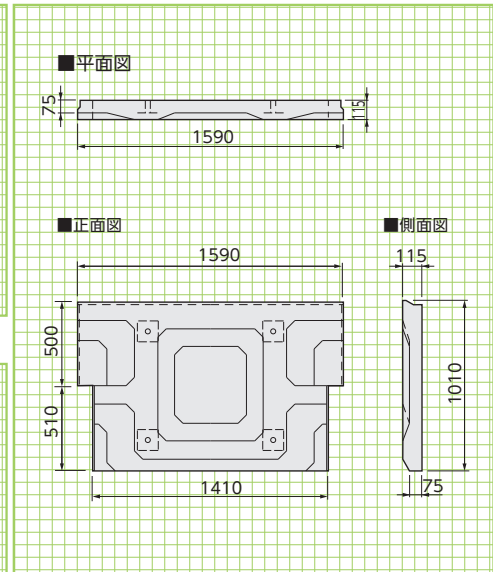
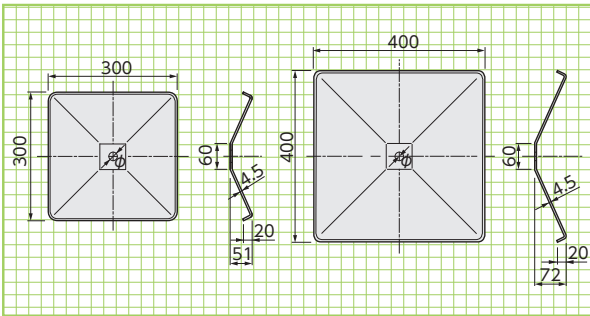
連結部材 B 詳細図





メインプレート

壁面材 (標準タイプ) 重量:351kg



サブプレート

